

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー

②評価調査者研修修了番号

S18007
19-13
SK2019004

③施設名等

名称：	山形学園
施設長氏名：	大場 由美子
定員：	40名
所在地(都道府県)：	山形県
所在地(市町村以下)：	山形市蔵王上野924
T E L：	023-688-2678
U R L：	https://yamagatashi-sj.or.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	1949/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 山形市社会福祉事業団
職員数 常勤職員：	25名
職員数 非常勤職員：	9名
有資格職員の名称（ア）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の数：	2名
有資格職員の名称（イ）	里親支援専門相談員
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	被虐待児個別対応職員
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（エ）	基幹的職員
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（オ）	特別指導員
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（カ）	看護師
上記有資格職員の数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	1人部屋 14室、3人部屋 7室
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>【理念】 法の理念に基づき、よい環境の中で愛情を持って養護に当たり、将来心身共に健やかな社会人として自立できるように育成する。</p> <p>【基本方針】 ・職員は、豊かな心と柔軟な思考・意欲を培いながら研鑽を高め、チームワークを図りながら愛情を持って児童の育成に当たる。 ・地域社会との交流・連携を深め、施設の理解を図りながら、児童の自主性や社会適応力の涵養に努める。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の年齢や個々の発達段階に応じた個別的な対応が出来るよう職員体制を整備している。 ・SST（ソーシャルスキルトレーニング）、性教育、命の学習、CAPワークの取り組みの充実や個を大切に生活支援を行っている。 ・リービングケアの充実。（フレッシュマン講座など）
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/5/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/8/12
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

⑦総評

◇評価の高い点

1 子どもの暴力防止プログラムについて

年齢ごとグループに分けてCAP(子どもの暴力防止プログラム)子どもワークを実施し、職員も、権利・虐待についての大人ワークを通して子どもと関わりを続け、課題の改善に向けて努めています。また、地域の方からも参加(地域ワーク)してもらい理解を深めてもらっています。さらに、心理的ケアを行いソーシャルスキルトレーニングのセカンドステップ(小学生対象)、サードステップ(中学生対象)により怒りのコントロール等ができるようになり、発達障がいや心身障がい等のある子どもに対して差別なく互いに助け合い、子どもの情緒安定の効果が着実にみられます。近年は大きな問題もなく穏やかな生活を送っています。

2 里親支援の取組について

理念・基本方針・処遇方針のもと、里親支援専門相談員が中心となり里親サロン(登録している里親が情報交換する会)を開催し信頼関係、相互理解を深め相談援助を行っています。入所児童の家庭生活体験や里親委託の推進に繋がるよう里親・子どもの視点に立った支援に努めています。愛着障害のある女児は里親との交流を重ねることにより、情緒・生活の安定に繋がることができ、昨年度施設として初めて里親委託という形で女児と男児の2名が退所しています。子どもが家庭や社会に支えられながら幸せな生活が送れるよう関係機関と連携し継続して取り組んでいます。

3 食育について

食生活に関する方針・給食指導目標・給食年間計画等を作成して、基本的な生活習慣や食事のマナー等も習得し1ユニット1家族の思いで一緒に食べることにより、美味しい楽しいという心の満足に繋がるよう支援しています。子どもから調理をしたいとの要望があり休日の朝食・おやつを一緒に作り、手作りの楽しさを体験しています。芋煮会やバーベキュー等の行事食・誕生日のリクエストメニューなど嗜好調査を活かし自分たちで育てた野菜を給食にも取り入れるなど、様々な食生活を体験することによって、心身の成長に繋がる「食育」に取り組んでいます。

◇改善が求められる点

1 「期待する職員像」の明確化について

施設は職員の支援方針として「処遇方針14項目」と「山形学園で働く職員としての必要な諸事項」を明示しています。今年度は多くの新人が採用となり、「振り返りノート」などを活用して育成を行っていますが、施設独自の「期待する職員像」を明確にして職員一人ひとりの個人目標に繋げ、施設全体で質向上に取り組むことを期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価を受審することで、私達が日頃実践している支援等、客観的に振り返ることが出来る機会となりました。高い評価を得ている項目については、現状に満足せず、子ども達一人ひとりの意見や思いを大切にしながら、ともに生活を作り上げていくことを基本とし、養育の質の向上に努めていきます。改善しなければならない点については、今後施設内で検討していきながら、施設全体の質の向上に努めていきます。客観的な視点で評価をして頂いたことで、今後も継続して取り組んでいくことや課題として取り組むべきことが明らかになりましたので、職員全員が共通認識を持ち、子ども達の成長を支援していきたいと思えます。

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	b
【コメント】 子どもが安心して安定した生活が送れるよう、理念は継続しそれぞれの方針は毎年職員会議等で検討して施設の概要や事業計画書に記載している。今年度の方針として「ワンチーム」をキーワードとして関係機関、職員等にも周知し養育・支援の充実を図っている。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	a
【コメント】 児童相談所や山形市家庭支援課と連携し状況把握に努めており、事業経営上の課題を分析・把握し国の施策に沿った体制づくりを協議し、経営環境の状況把握に努めている。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	a
【コメント】	

山形市・法人本部と連携をとり、経営課題の改善や質の向上に向けた課題に職員間でも共有し取組み、更なる支援体制の強化等を実施して子どもへの最善のケアに努めている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	<p>4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	b
【コメント】		
中・長期計画は策定中であり、「新しい社会的養育ビジョン」にもとづき職員の配置や行事の見直し、地域に根差した児童養護施設となるよう検討している。		
②	<p>5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	a
【コメント】		
新型コロナウイルスの影響で計画の変更を余儀なくされたが、単年度の事業計画は具体的に実行可能な内容となっており、そのための方針等も検討している。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	<p>6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/>評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	a
【コメント】		
事業計画は運営会議・職員会議等で年度始め、年度末に検討や見直しを行っている。職員からは多くの意見等ができるようになり、職員間・職種間で共通認識のもと連携して子どもの支援に繋げている。		
②	<p>7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。</p>	b

	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】		
<p>子ども会、保護者会はないが「ふれあい祭り」などの年間行事については口頭で説明しており多くの参加を得ている。事業計画については、家庭支援専門相談員が家族と連絡を密にして理解を図っている。今後は周知方法等の具体的な取り組みに期待したい。</p>		

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
<p>① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。</p> <input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	
【コメント】	
<p>職員は自己評価を毎年行っており、結果を分析し検討課題は改善に向けて取り組んでいる。子どもへの関わり方に気づきが具体的に表れており、職員一人ひとりとチームで質向上に繋げている。</p>	
<p>② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。</p> <input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	a
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	
【コメント】	
<p>運営会議を月1回または課題等がある場合には随時開催している。昨年は職員に欠員がでたため、学習ボランティアで来園していた学生を含む4名を新採用とし、また契約職員から正職員に任用して人材確保に取り組んでいる。</p>	

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】
 管理運営に関する文書内に、全職員の職務分担・業務分担表があり施設長の役割等については詳しく載せている。年度始めの施設方針は施設長がキーワード「ワンチーム」を決めて職員に対して所信表明して方向性を示し実行している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】
 施設長は内外の研修や会議等に参加し、法令等については職員に運営会議・職員会議・職種ごとの会議・法人の会議等で情報伝達を行い、さらに毎日の朝礼時にも確認し遵守している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	

【コメント】
 施設長は養育・支援の質向上に向けて職員の意見を具体的に聞いて判断し、若い職員の育成にも力を入れ働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員のチーム作りにも協力して指導・助言を行っている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】
 施設長は、法人資産や業務確認を法人本部と密に行っている。各ユニットの構成については職員配置や子どもの部屋割りを毎年変更するなどして、子どもが将来安心してより良い人間関係の構築ができるよう取り組んでいる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
 評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	

【コメント】

昨年は退職者に替わる人員の補充がかなわず現場職員の負担が大きかったが、今年度は新人を採用することができ充足率が上がっている。新人職員は「振り返りノート」を使って養育・支援について上司から良い点・悪い点などのアドバイスを受け子どもと向き合っている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【コメント】

人事管理については法人が一括して行い職員は年1回希望する勤務先を書いた申告書を直接提出し、人事異動は資格等を考慮し行われている。給与等は採用要綱の中に明記し周知している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

働きやすい職場環境に努め、ストレスチェック表で事業団の産業医からアドバイスを受け精神的ストレス軽減に取り組んでいる。有給休暇の取得率も上がっており、産休・育休制度も充実し職場復帰しやすい環境になっている。また、夜勤は正職員の他に宿直対応の契約職員も配置し夜間時は安心して勤務に就くことができる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

	<p>① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。</p> <p><input type="checkbox"/>個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>職員の目標管理については職員会議の中でグループ分けして子どもとの関わり方の対応を話し合いベストなやり方を見出し、フロア会議で成果を発表して各ユニットの養育・支援に活かしている。新人職員も増えたことから「山形学園で働く職員としての必要な諸事項」が定めてあるが「期待する職員像」の明確化に期待したい。</p>		
	<p>② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。</p> <p><input type="checkbox"/>現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。</p> <p><input type="checkbox"/>策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に計画の評価と見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>事業計画の中に教育・研修の計画が明記しており、職員はそれぞれの職責に応じて参加している。内部研修は勤務割に配慮し全員参加のもとで実施している。今回は新型コロナウイルスの影響もあり心理担当の先生からはオンラインでの研修を受けている。</p>		
	<p>③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。</p> <p><input type="checkbox"/>個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/>新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。</p> <p>(5種別共通)</p> <p><input type="checkbox"/>スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>内・外部の研修計画は、研修担当者が職員アンケート等を参考に内容を決めている。研修参加後は全職員が報告書を提出して共有し養育・支援の質向上に繋いでいる。新人職員は研修ノート(振り返りノート)で多くの気づきを確認することができスキルアップを図っている。悩みなどは施設長や基幹的職員が相談対応を行っている。</p>		
<p>(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p>		
	<p>① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/>実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。</p>	a

	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	
【コメント】		
<p>実習受け入れマニュアルを整備し、「実習生受け入れの流れ」「実習における留意事項について」の中に子どもとの関わり方や手順・注意することが明示してある。問題があれば職員がしっかり対応し、スムーズな受け入れ体制を構築している。</p>		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
<p>① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p> <input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。 <input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。 <input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。 <input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。 <input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	b
【コメント】	
<p>法人のホームページ上で学園の事業報告を行い透明性を図っている。事業報告の中に第三者評価を自己評価とともに分析し記載している。パンフレットを準備しており見学者や民生委員などが訪問した時に都度配布している。</p>	
<p>② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p> <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。 <input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	a
【コメント】	
<p>毎月1回法人の税理士による監査を実施し、本部を通して結果報告を受け指摘事項があれば改善にむけ透明性を図り経理規程を遵守し適正な運営を行っている。急な支出には「小口現金の運用」を定め対応している。</p>	

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input type="checkbox"/> 子ども個々の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 <input type="checkbox"/> 子どもへの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	b

	(児童養護施設) □学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	
【コメント】 山形学園として管理運営の中に地域社会との「交流の推進」を掲げ、学園行事への理解を深めている。お祭りなど互いに受け入れ、地域住民からは野菜や果物の差し入れがあり子どもの笑顔と支援の輪が広がっている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。 □ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。 □地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。 □ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。 □ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	b
【コメント】 ボランティア受け入れマニュアルを整備し担当職員を配置している。入所している子どもの状況に配慮し、問い合わせをもらい直接面接を行って決定している。学力向上のための学習ボランティアや散髪、草取りなどの環境整備において子どもと関わりを持ち施設の理解と協力を得ている。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。 □当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。 □職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。 □関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。 □地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。 □地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	a
【コメント】 役割を持っている関係機関とはいつでも連絡が取れるよう明確にし職員に周知を図っている。小・中学校とは定期的に連絡協議会を実施し、PTA総会や授業参観などへ参加し連携を図っている。退所後も関係機関と協力して、困っていることや相談したいことに対応し、また結婚などのうれしい報告もあり支援を継続している。		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。 □施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	b
【コメント】 地区の地域福祉懇談会に園長が出席し、自治会と災害対策等の話し合いを行っている。また幼稚園の運動会やスポーツ少年団の練習に体育館を開放し、地域貢献として取り組んでいる。		
②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。 □把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。 □把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	b

	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	
【コメント】		
子どもへの暴力防止のためのプログラム（CAP地域ワーク）を開催し講師（教育ジャーナリスト）を招いて地域の方たちの参加を得て理解を深めることができている。里親サロンは登録している方と関係機関が定期的開催しており、昨年度は初めて2名の子どもが里親委託に繋がっている。		

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	
【コメント】		
施設の運営方針と処遇方針14項目を明示し、職員は多職種連携の「ワンチーム」として養育・支援に努めている。今年度は欠員だった人員の補充もでき、一人ひとりの研修の機会や全体での会議の充実が図られている。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	
【コメント】		
「被措置児童虐待防止マニュアル」を基本とし、4ユニットの縦割りで家庭的な環境のもと、高学年には個室が与えられプライバシーにも配慮している。子どもからは、秘密にしてほしいことなどプライバシーは守られているとの声が多くあり、職員への信頼が得られている。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】
 ホームページで学園の情報を公開している。一時保護所、乳児院からの子どもには職員が面会に行き、その後子ども本人が児童相談所の付き添いで見学に来園し、体験してもらいわかりやすい説明と質問に答えて生活のイメージが描けるように配慮している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】
 保護者の同意を得て措置入所となり、入所時に説明や見学を実施している。子どもには児童相談所から「子どもの権利ノート」をもとに説明がありスムーズな入所に繋げており、在園児と共に温かく迎えている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】
 措置変更、地域・家庭への移行は施設と関係機関が検討を重ねて児童相談所が決定している。退所者にはアフターケアを実施しており、職員はルールを決めて相談などに応じて退園児童記録で共有している。必要に応じて児童相談所と連携して再措置・再入所にも対応している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】
 個別の聴取やアンケート調査を行い子どもの満足度の把握に努めており、リクエストメニューや手作りおやつなどの実施に繋げている。「ふれあい祭り」や行事では各ユニットの高校生が実行委員となり企画・準備をするなど、子どもの自主性を尊重している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b

<input type="checkbox"/>	養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

施設の苦情解決の体制(苦情受付担当者・苦情解決責任者の設置)が整備されている。法人全体で第三者委員を設置し、定例の委員会開催や年1回は来園して子どもの普段の生活の様子を見学してもらい、話し合いなどを行っている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
<input type="checkbox"/>	子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	

【コメント】

意見箱を設置しているが投函はほとんど無く、子どもの意見・要望は身近にいるユニット担当職員に直接話すことが多く、フリーの職員が調整役に入ることもあって話しやすい環境作りに努めている。年1回は子どもと児童相談所の担当福祉司との面談があり、意見を聞いてもらっている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
<input type="checkbox"/>	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
<input type="checkbox"/>	意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
<input type="checkbox"/>	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもからの意見・要望を把握して職員全員で共有し、運営会議で検討してできることはすぐ対応し、できないことは理由を納得するまで説明している。食べたい物の要望が多くあり、給食のメニューに取り入れて喜ばれている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
<input type="checkbox"/>	リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
<input type="checkbox"/>	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
<input type="checkbox"/>	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	

<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

毎週、施設内外や居室の設備点検を行い、安全確保・事故防止に努めている。ヒヤリハット報告・事故報告を記録して職員全員で情報共有し、職員会議等で再発防止策を検討し実施している。保護者等からの強引な引き取りなど緊急事態に備えて、地域の交番と情報交換を行っている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	

【コメント】

新型コロナウイルスに関して新たにマニュアルを作成し、子どもの理解もあって集団生活の中で危機感を持ち看護師から専門的な助言・指導を得ながら施設全体で感染予防に取り組んでいる。予防接種は母子手帳や確認書で確認し、未接種の場合は嘱託医と相談しながら計画を立てて実施している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	

【コメント】

毎月重点目標を決めて、時間帯・出火場所・避難場所・あらゆる災害を想定して子どもの参加のもと避難訓練を実施し、年上の子どもは小さい子どものリード役の意識付けができています。隣接する福祉施設の訓練に職員が参加して協力体制を築いており、自家発電機・食料品・簡易トイレ・アルミ毛布などを備蓄し、また自衛消防隊を編成して災害に備えている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

援助マニュアルにもとづいた標準的な支援と、子どもの状況や必要とされる個別的な支援をユニット職員とフリー職員で一本化され「ワンチーム」で実施している。処遇会議と全職員が年3回行う「人権擁護のためのチェックリスト」で自己点検し実施方法の確認をしている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【コメント】

職員会議や処遇会議で定期的に養育・支援の実施方法の検証・見直しが行われ、新たに決定したことは会議録で職員全員が共有し速やかに実行している。近年の子どもはゲーム機などの欲求はあるが、大きな事故もなく穏やかな生活を過ごしている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	

【コメント】

児童相談所からの情報を参考にして入所1ヶ月位の期間を経てからまとめたアセスメントシートをもとに処遇会議で合議し、ユニット担当職員が自立支援計画票を作成している。子どもの努力目標は生活に密着した身近な課題から始めて達成感を味わえるようにしている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

自立支援計画の支援については年4回、家庭・学校については年3回、処遇会議で子ども一人ひとりの評価・見直しを実施している。子どもの努力目標は小さい子どもほど頑張る様子が見られ、喜びや向上心を育てている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	<p>44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/>パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。</p>	a
---	--	---

【コメント】

業務日誌、記録などはパソコンのソフトを利用して入力し、職員は出勤時に必ず目を通して情報を確認・共有している。個別のケース記録はプリントアウトしてファイルしており、担当職員の休職・退職があった場合もユニット体制でスムーズな引継ぎが行われている。

②	<p>45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/>個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>記録管理の責任者が設置されている。</p> <p><input type="checkbox"/>記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。</p> <p><input type="checkbox"/>個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。</p>	a
---	--	---

【コメント】

個人のケースファイルは職員室に保管し、園長が管理責任者となっている。入所・退所時の保護者等から複数の書類への署名・捺印は児童相談所立ち会いのもと行われている。子どもや保護者等から情報開示を求められた場合は児童相談所の判断を得るようにしている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p>
<p>【コメント】</p> <p>職員は人権擁護のためのチェックリストを定期的に自己点検を行い、子どもの個性や特性を把握し侵害が起きないように、日ごろから声掛け等に取り組んでいる。職員の権利擁護についての研修は、あらゆる機会を捉え会議の終了後もマニュアル等を使って行っている。</p>	
(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p>
<p>【コメント】</p> <p>CAP子どもワークは年齢ごとグループ分けを行い、権利についての理解を深めるよう取り組んでいる。子どもは発達障がいなどを持っている子どもに対しても差別なく接し互いに理解し過ごして情緒の安定に繋がっている。職員も、権利・虐待についての大人ワークを実施している。</p>	
(3) 生き立ちを振り返る取組	
<p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。</p>	<p>a</p>
<p>【コメント】</p> <p>ユニット制を導入して個別ケアを実施しており、部屋割りなどの構成は大きく変えないで人間関係に配慮して毎年見直しをしている。生き立ちを振り返る機会は児童相談所と連携しながら発達状況のタイミングを見て話し、写真等の確認を大事にしている。</p>	

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	<p>A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的等め、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。</p>	a
---	--	---

【コメント】

「被措置児童等虐待防止マニュアル」の研修を全職員で実施し理解を深めている。子どもの訴えには普段の様子をよく見てサイン等を見逃さないようにし、不適切な関わりが無いよう職員間でも業務引継ぎ時に情報共有しながら早期発見に努めている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	<p>A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。</p>	a
---	---	---

【コメント】

1ユニット1家族という認識で、「共に生活をつくる」を意識して子ども一人ひとりのカラーを大事に、職員と共に家庭に近い温かい雰囲気子どもが協力し、話し合いながら楽しく生活できるよう主体的に取り組んでいる。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	<p>A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。</p>	a
---	--	---

【コメント】

入所前の面会・説明・見学は児童相談所の職員と一緒にいき、今までの学校やこれから入学する学校と調整会議を開催している。「山形学園のきまり」に沿ってわかりやすく説明し不安を少なくして入所できる体制を整えている。退所後も家庭訪問等を行いアフターケアも行っている。

②	<p>A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。</p>	a
---	--	---

<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	
<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	
【コメント】 退所後の自立した社会人生活を送るためのフレッシュマンスタート講座(高校3年生対象)は大切な講座で、年6回様々な講座を開催し支援している。退所後1年は計画的に家庭訪問を行い、その後も相談が寄せられた場合に対応している。県外でも出張等を利用して訪問するなど、退所後のアフターケアについても全職員で共有し記録している。	

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。 <input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。 <input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。 <input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。 <input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	a
【コメント】 子どもと職員が生活を共にすることで自然に接し信頼関係を築いている。子どもが感情や言動で問題があった場合、職員は見逃さないようにし自分で感情をコントロールできるようにフォローするなど冷静に対応している。		
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。 <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。 <input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。 <input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。 <input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。 <input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	a
【コメント】 子ども一人ひとりの養育・支援については、フロアーリーダー制を取り入れ、各ユニットには必ず担当職員が入るようにし協力している。複数の職員が関わることにより、子どもの安心感に繋がっている。		
③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。 <input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	a

<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に把握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	

【コメント】

職員は「ほめて育てる」ことを大事にして、子どもが安心して自ら主体的に行動できるよう目指している。一大イベント「ふれあい祭り」では高学年生自ら実行委員となり力を発揮している。退園生激励会では正装した姿で一人ひとりが職員に感謝の言葉を述べる場面があり、子どもの成長に喜びを感じている。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	

【コメント】

入所している子どもの年齢幅が大きく、一人ひとりの能力や発達状況に応じた養育環境を整え、家庭的な温かさが感じられるように取り組んでいる。小・中学生には学習ボランティアの協力を得て学力向上と将来の目標に向けた支援を行っている。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	

【コメント】

基本的な生活習慣を身に着けるために職員は自らが手本となることで、洗濯・掃除・調理・整理整頓など繰り返し学び、援助マニュアルに沿って日々の生活を支えている。高校生が多く在園しており、フレッシュマンスタート講座で進学・就職後の諸手続きや法律、経済観念など、社会における人との関わりについて学習し、リービングケアの充実を図り自立支援に繋いでいる。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですり食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	

<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとの、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	

【コメント】

入所前は適切な食環境になかった子どもには食事が満たされることが大事として、食育に力を入れている。年2回嗜好調査を行い、行事食や誕生日に希望を取り入れて満足度アップを図っている。小学生中心に畑づくりをしており、調理実習では協力して味噌汁やカレー、おやつ作りなど、また収穫したものも取り入れ、リビングでにぎやかな楽しい食卓を囲んでいる。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	

【コメント】

衣服費として年間予算があり、一人ひとりの計画に沿って購入している。育ち盛りの子どもは成長に合わせて買い替える頻度が多くありお下がりなども行っている。職員と一緒に買い物に出かけ、子どもの好みや金額に配慮しながら購入している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

小規模化・ユニット化が図られて、縦割り構成で高学年の子どもは個室になっている。それぞれの居場所があり十分なスペースが確保されている。物を大切に使うことを学び、職員と協力して網戸の張替えや廊下の雑巾がけなど清潔な住環境づくりに励んでいる。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	

<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

看護師による毎月の身体測定や嘱託医による年2回の健診があり、子どもの健康状態を把握し適切な対応をしている。感染症予防マニュアルを整備し、インフルエンザ・ノロウイルス、各種伝染病等、今年度新たに新型コロナウイルスについて保健所から指導を受け対策等シュミレーションを行い、子どもと一緒に予防に努めている。

(6) 性に関する教育

① A17 子どもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

性については子どもの年齢・発達に合わせて学校と連携し、また外部講師による命の学習が行われ、正しい知識を持つように支援している。女子はレディースノートを活用し男女を隔てることなく尊重する心を養っている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	

【コメント】

学校などから帰宅後感情が高ぶっている時などは、職員は注意して様子を見ながらエスカレートした場合はタイムアウト・クールダウンを促している。早急な対応が必要な場面にはユニット担当・フロア担当職員が協力して対応している。行動上の問題に対しては、学校・児童相談所・精神科医と協議・連携を図っている。

② A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	
<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	
<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	
<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	

【コメント】

ユニット内は年齢幅があるので年長者は小さい子どもの面倒を見ることは身に付いているが、チャンネル争いや疑似兄弟げんかなどの些細なトラブルには職員が介入するときもある。ユニット構成や子ども同士の関係性を職員は注意深く観察して問題が生じないように施設全体で取り組んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	

【コメント】

虐待経験や障がいを持つなど児童相談所の判断による心理的ケアが必要な子どもが増えており、臨床心理士から心理的ケアを受けている。個別ケアから小学生はセカンドステップ、中学生はサードステップのグループケアを継続して実施し、子どもの情緒安定に繋がるなどの効果が見られる。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	

【コメント】

入所前の養育環境により学力の低い子どもには、曜日毎に来園する学習ボランティアに学習支援を依頼している。中学生は高校受験を見据えて家庭教師による学習指導を受けている。子どもには帰園後家庭学習が習慣化するように日課に取り入れている。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】
 子どものほぼ全員が希望する高校に進学して学園から通学し、高校卒業後も入所希望者には引き続き措置や「社会的養護自立支援事業」を活用している。昨年度大学進学者がおり、関係機関と連携して補助金、奨学金などの情報提供して希望に沿えるようにしている。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	

【コメント】
 高校の許可を得て休日にアルバイトをしている子どももおり、また職場実習、職場体験などの勤労を体験して自立支援に繋げている。毎週近隣の老人施設への訪問や同法人老人施設のお祭りボランティアなどへ出かけ、社会体験を多くできるようにしている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりひ発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	

【コメント】
 家庭支援専門相談員を配置して家庭等との信頼関係の構築に取組み、児童相談所の許可を得て面会・外出・一時帰宅などを通して子どもとの関係調整を図っている。保護者に行事の案内状を出すなどほとんどの方の参加がある。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	

【コメント】
 家庭復帰は親子関係の再構築のための支援方針を関係機関と検討し、親子生活訓練室で一緒に過ごすなど時間をかけて進めて児童相談所が決定する。保護者等から「不当に妨げる行為」があった場合は子どもの意思と安全確保が優先するときもある。